

学校法人 柏 専 学 院

平成26年度事業報告

目 次

第1部 学校法人柏専学院の概要	P 1
1. 設置する学校、学部、学科等		
2. 学生数の状況		
3. 役員、教職員の概要		
4. 理事会開催状況		
第2部 事業の概要	P 3
I. 新潟産業大学		
1. 事業方針		
2. 管理・運営	P 3
3. 教 育	P 4
4. 研 究	P 5
5. 学生への支援	P 5
6. 留学生支援	P 8
7. 学生募集及び入学試験	P11
8. 地域貢献・生涯学習	P13
9. 国際交流	P19
10. 附属図書館	P19
11. FD（ファカルティ・ディベロップメント）及び SD（スタッフ・ディベロップメント）	P21
12. 施設開放	P22
II. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科	P23
III. 新潟産業大学附属高等学校	P24
1. 「教育等の事業」の概要		
2. 今年度の実績		
3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ		
4. 生徒募集		
5. 新規取組事項		
第3部 財務の概要	P32

第 1 部 学校法人柏専学院の概要

1. 設置する学校、学部、学科等

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 90 人 収容定員 360 人
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 70 人 収容定員 280 人
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 10 人 収容定員 20 人 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 160 人 収容定員 480 人

2. 学生数の状況

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	6 1	
			2 年	3 9	
			3 年	4 9	
			4 年	5 9	
		文化経済学科	1 年	3 4	
			2 年	4 0	
			3 年	2 7	
			4 年	5 0	
	合計(大学)			3 5 9	
	大学院	経済学研究科	1 年	5	
2 年			1 1		
合計(大学院)			1 6		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		1 年	1 6 0	
			2 年	1 3 3	
			3 年	1 5 7	
	合計(高校)			4 5 0	
総 計			8 2 5		

3. 役員、教職員の概要

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

		現 員					
役員等	理事	監事	役員合計		評議員		
	1 1	2	1 3		2 3		
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	合計				
	8 (併任)	2 8	2 8		3 0	3 1	8
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時	合計	専任	嘱託	臨時
	2 7	2	3	3 2	4	—	—

4. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8~11 名 (現員 11 名) 監事定数 2 名 (現員 2 名)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H26.5.28	1 1 人	2 人	議題 1.平成 25 年度事業報告 2.平成 25 年度決算 3.平成 26 年度当初予算の一部変更 4.評議員の選任 報告 1.資金運用状況
第 2 回	H26.5.28	1 1 人	2 人	議題 1.平成 26 年度当初予算の一部変更
第 3 回	H26.10.31	9 人	1 人	議題 1.新潟産業大学の設置者変更(公立大学法人化)にかかると柏崎市への要望書の提出
第 4 回	H26.11.26	1 1 人	2 人	議題 1.理事、評議員の選任 2.諸規程の改正 報告 1.新潟産業大学の設置者変更(公立大学法人化)にかかると柏崎市への要望書の提出
第 5 回	H26.12.2	1 1 人	2 人	議題 1.理事長、副理事長、常務理事の選任 2.理事の分掌
第 6 回	H27.3.25	1 1 人	1 人	議題 1.平成 27 年度事業計画 2.平成 26 年度第 1 回補正予算 3.平成 27 年度当初予算 4. 大学、高校人事 5.平成 27 年度資金運用管理方針 6. 諸規程の改正 7.理事、評議員の選任 8.懲戒処分
第 7 回	H27.3.25	1 1 人	1 人	議題 1.平成 27 年度事業計画 2.平成 26 年度第 1 回補正予算 3.平成 27 年度当初予算 報告 1.平成 27 年度大学、高校入試状況 2.平成 26 年度大学、高校卒業生就職・進路状況

第2部 事業の概要

I. 新潟産業大学

1. 事業方針（平成25年度から平成28年度）

- (1) 「地域おこし大学」として、経済学的見地からの地域振興の研究を行い、地域の芸術文化などを生かした「まちおこし」等を通じて大学と地域の双方が活性化する方策を検討し実施する。
- (2) 「人づくり大学」として、社会に通用する付加価値を獲得した学生を送り出せるよう、一人ひとりの学生に対して丁寧な教育を行う「面倒見大学」を旨とし、学生自らが自己記録更新や自己研鑽に喜びを見いだせる教育環境を整備する。

2. 管理・運営

実施項目	平成26年度実施内容
(1)管理体制及び将来計画立案	<ul style="list-style-type: none"> ① 学長を中心とした管理運営体制を確立するために、学長・副学長等会議及び企画調査室を設置した。 ② 大学校務に関する学長の最終決定権を担保するために、学則等学内諸規程諸規則の総点検と改正を行った。 ③ 学長・副学長等会議において大学の将来構想を検討した。 ④ 教員の自己点検評価を実施した。
(2)財務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成27年度春学期入試及び平成26年度秋学期入試において学生数を増加させた。詳細は、「7. 学生募集及び入学試験」を参照。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度春学期1年次入学生は127人で、対前年同期比36人増加させた。 ・平成27年度春学期編入学は6人で、対前年同期比2人増加させた。 ・平成26年度秋学期入学は17人で、対前年同期比15人増加させた。 ・平成26年度秋学期編入学は4人で、対前年同期比4人増加させた。 ② モンゴル国並びに中国内モンゴル自治区において海外秋学期入試を実施し、留学生を受入れた。 ③ 定員を見直し、平成27年度入学試験より、経済経営学科の入学定員を10人減の80人に、文化経済学科の入学定員を10人減の60人に縮小した。 ④ 学費減免特待制度の現状把握を行ったが、奨学費の削減には至っていない。 ⑤ 期末手当、勤勉手当の減額及び職務手当の減額、大学教員の昇給停止年齢引下げ（65歳を60歳へ）等により人件費を削減した。 ⑥ 「新潟産業大学教育研究支援募金」を「新潟産業大学基金」に発展させるための検討を行った。
(3)既存施設の新たな活用方法の検討及び不要資産の売却	新潟県中越沖地震により取り壊した大学国際交流会館（くじらなみ荘）跡地の山林化した一部の地目変更がかない、固定資産税等の税負担軽減がなった。

3. 教 育

事業項目	平成 26 年度実施内容
(1) 教学組織改革	<p>① 学長・副学長等会議に教育改革担当の学長補佐を置いた。</p> <p>② 学長・副学長等会議において、本学の存在意義、学部目標とこれに合致したカリキュラム、「地域おこし大学」の柱、「人づくり大学」の柱、本学の国際化について検討した。</p>
(2) 学士課程教育の質的転換に向けた取組	<p>① 学修時間増の取組について 平成 27 年度より、単位修得条件である自学自習時間について、必要な「予習・復習等」の内容をシラバスに明記することとした。また、今後は学生授業アンケート等で自学自習の実態把握を行うこととした。</p> <p>② 教育課程の体系的点検について 平成 27 年度より「科目ナンバリング」を導入することを決めた。これにより、教育課程における各授業科目の体系的な位置付けと、科目間の関連性を明示することができるようになる。また、学生が科目選択する際の明確な道標となる。</p> <p>③ 学習達成度把握等の検討について 平成 27 年度入学者より「GPA 制度」を導入することを決めた。GPA は修得した単位の質を表すことから、各学生の学習達成度を知り、これを修学指導に繋げることができる。</p> <p>用語：GPA（文部科学省ホームページより） アメリカで行われている学生の成績評価方法の一種です。その一般的な取扱いの例とされているものは、以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を 5 段階（本学は S、A、B、C、D）で評価し、それぞれに対して 4、3、2、1、0 のグレードポイントを付与し、この単位当たり平均（GPA、グレード・ポイント・アベレージ）を出す。 2. 単位修得は C でも可能であるが、卒業のためには通算の GPA が 2.0 以上であることが必要とされる。 3. 3 セメスター（1 年半）連続して GPA が 2.0 未満の学生に対しては退学勧告がなされる。ただし、突然勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。 <p>なお、このような取扱いは、1 セメスターに最低 12 単位、最高 18 単位の標準的な履修を課した上で成績評価して行われるのが一般的です。</p>
(3) 学習支援の充実	<p>① リメディアル教育の充実について 基礎科目の「基礎ゼミナール」、「生活数学」等において、大学生としての基礎知識習得のための教育に取り組んだ。</p> <p>② 授業欠席者ケアの実施 教員は、「学内授業出欠管理システム」により担当学生の授業出欠状況を把握し、必要な指導を行った。また、保護者との「個別面談会」等においても、保護者に対し授業出欠情報を提供し、連携して欠席の多い学生のケアに取り組んだ。</p>

4. 研 究

事業項目	平成 26 年度実施内容								
(1) 紀要の発行	<p>① 経済学部紀要第 44 号 を平成 27 年 2 月に発行した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>執筆者</th> <th>題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>星野 三喜夫</td> <td>エドワード・ルトワックの『The Rise of China』が示唆するもの</td> </tr> <tr> <td>小林 健彦</td> <td>浪分けの論理 後篇 ～文化論としての震災への対処～</td> </tr> <tr> <td>江口 潜</td> <td>表計算ソフトウェアを使った「大学の授業時間割作成支援ソフトウェア」：「方法」の開示</td> </tr> </tbody> </table>	執筆者	題目	星野 三喜夫	エドワード・ルトワックの『The Rise of China』が示唆するもの	小林 健彦	浪分けの論理 後篇 ～文化論としての震災への対処～	江口 潜	表計算ソフトウェアを使った「大学の授業時間割作成支援ソフトウェア」：「方法」の開示
執筆者	題目								
星野 三喜夫	エドワード・ルトワックの『The Rise of China』が示唆するもの								
小林 健彦	浪分けの論理 後篇 ～文化論としての震災への対処～								
江口 潜	表計算ソフトウェアを使った「大学の授業時間割作成支援ソフトウェア」：「方法」の開示								
(2) 外部からの研究資金	<p>① 平成 26 年度科学研究費助成事業 ア. 高橋 眞一 名古屋大学分担 イ. 高橋 眞一 島根大学分担</p> <p>② 内田エネルギー科学振興財団助成金 ア. 藤井 信行 「エネルギーと環境問題」、「いろいろな光が絡む環境問題」、「光触媒と環境浄化」、「分光シートや偏光シートを用いた万華鏡作成」他 イ. 岡村 宜城 「女子向けサッカースクールの開催」 ウ. 平野 実良 「高齢者のためのスマートフォン安心安全講習会」</p>								

5. 学生への支援

事業項目	平成 26 年度実施内容
(1) 学生行事・学生活動	<p>① 学園祭など学生主催行事に対する支援 ア. 学友会・学生行事実行委員会ミーティングにおいて、学生課職員が学生行事等の企画に対する指導助言を行った。 イ. 学園祭の企画立案について、新規企画や集客を図るための方策、広告・協賛金依頼方法など指導を行った。 ウ. 学生企画の「球技大会（バレーボール大会）」（8 チームが参加した。）や「クリーンデー柏崎 in 産大」、「キャンドルナイト」などに助言を行った。</p> <p>② 公認部・サークル活動の活性化 大学公認部及びサークル活動の活性化を推進する一環として新入生の加入率をあげようと努めたが、学生の加入率は、平成 25 年度 80% から平成 26 年度 74% に減少した。 ア. 新入生学外合宿研修において、先輩部員によるサークルの紹介を実施するとともに、学生課にて新入生に対し「課外活動見学会の希望調査」を実施し、新入生に部・サークル加入を働きかけた。 イ. 新年度ガイダンス及び 1 年次必修科目「基礎ゼミナール」の授業時に部活動・サークル活動の大切さを説明した。</p> <p>③ 学生相談の充実 学生の相談には、教員による担任制（基礎ゼミ、専門ゼミ教員が担任）、</p>

	<p>医務室対応、CLA（事務職員キャンパスライフアドバイザー）設置等種々窓口を用意し対応した。また、学生生活アンケートの実施や「学生意見箱」（記名・匿名選択可）等により修学・生活状況の把握に取り組んだ。さらに、規程に定める「学生支援協力会議」により、心身に障害を持つ学生に対し適切な対応を行った。</p> <p>ア．学生課医務室職員（看護師・保健師）が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を実施した。</p> <p>イ．学校医（精神科医師1人）と専門医（心身医療科医師1人）、カウンセラー（1人）によるカウンセリングを毎月3～5回実施した。</p> <p>ウ．基礎ゼミ担任とCLA協働で学生生活個別面談を実施した。</p> <p>エ．全教員が「オフィスアワー」を実施した。</p> <p>オ．「学生生活アンケート」や「学生意見箱」により学生からの意見・要望収集を行った。投書に対しては学生掲示板に回答を掲示した。</p>																																								
<p>(2)経済的支援及び学費軽減</p> <p>※外国人留学生については6. 留学生支援において報告。</p>	<p>①経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。</p> <p>②人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。</p> <p>③スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。</p> <p>④平成27年度学費軽減対象者を決定した。</p> <p>【表】平成27年度に学費軽減を受ける学生数</p> <table border="1" data-bbox="528 952 1410 1303"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成27年度の学年→</th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経済的理由</td> <td>授業料半額減免</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">学業成績優秀者</td> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">スポーツ・文化活動</td> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免</td> <td>28</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>資格特待</td> <td>授業料半額減免</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤大学契約借上げアパートを学生に安価で提供し、経済的負担軽減を行った。</p>	平成27年度の学年→		1年生	2年生	3年生	4年生	経済的理由	授業料半額減免	9	6	2	2	学業成績優秀者	授業料全額免除(4年間)	3	1	5	1	授業料半額減免	7	6	4	4	スポーツ・文化活動	授業料全額免除(4年間)	3	8	2	3	授業料半額減免	28	16	8	7	資格特待	授業料半額減免	1	0	—	—
平成27年度の学年→		1年生	2年生	3年生	4年生																																				
経済的理由	授業料半額減免	9	6	2	2																																				
学業成績優秀者	授業料全額免除(4年間)	3	1	5	1																																				
	授業料半額減免	7	6	4	4																																				
スポーツ・文化活動	授業料全額免除(4年間)	3	8	2	3																																				
	授業料半額減免	28	16	8	7																																				
資格特待	授業料半額減免	1	0	—	—																																				
<p>(3)学外団体との連携</p>	<p>①スポーツ競技団体や文化団体との連携支援</p> <p>水球部、卓球部、ライフセービング部、バスケットボール部、芸術文化部、写真部、茶道部、書道部が、地域の団体や高校等と合同練習や連携活動を実施するための支援を行った。</p> <p>②地域のボランティア活動等諸団体との連携支援</p> <p>各種団体からの学生に対するボランティア活動の依頼に対し、学生課が窓口となり、ポスター掲示等学生周知を行った。学友会・学生行事実行委員会、青年赤十字奉仕団、水球部・卓球部・ライフセービング部・サッカー部などが柏崎地域でのボランティア行事に参加するための支援を行った。</p> <p>③父母の会及び校友会との連携支援</p> <p>ア．父母の会総会時に、学生の修学状況等を保護者に報告した。また、就職情報企業から講師を招き、保護者に対し就職に関する情報提供を行った。総会后、保護者と教職員の懇親会を開催した。その他、父母の会各支部総会に教員を派遣した。</p>																																								

	<p>イ. 校友会会報に、課外活動等で活躍する学生の広報支援を行った。</p> <p>④新潟工科大学と本学学生との交流支援 柏崎市民有志による2大学新入生合同歓迎会の企画及び運営を校友会学生と教職員が協働で行った。</p>																																																
(4)就職支援	<p>①学生のキャリア形成を支援するための早期指導体制強化 必修の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ（1年生）、基礎ゼミナールⅢ・Ⅳ（2年生）、ゼミナールⅠ（3年生）までキャリア・ポートフォリオを共有した個人指導体制を構築した。また担当教員にキャリア・ポートフォリオの運用チャート・指導マニュアルを配布することで、指導内容の均一化を図った。</p> <p>②自己実現を支援するための個別就職指導体制の更なる充実 就職課職員3名に加え、嘱託相談員（常駐）1名、外部相談員2名を配置し、4年生全員に徹底した個別指導を行った。また就職活動に取り組めない4年生について積極的に保護者と面談を行い、連携して就職支援を実施することにより、就職希望者の就職率100%を達成した。</p> <p>③学内求人情報システムの完成 就職資料閲覧室にパソコン4台を設置し、学生が求人情報システムを利用した効率的な求人情報収集を行えるようにした。</p> <p>④月次求人データ集計の改善 平成26年度より、求人システム集計項目に業種・職種項目を追加した月次求人集計に変更した。</p>																																																
(5)資格検定等支援 ～学生の付加価値 づくり～	<p>学生の資格・検定等の取得支援を以下のとおり実施した。</p> <p>1. 対策講座の実施</p> <table border="0"> <tr> <td>①日商簿記検定3級講座</td> <td>全3回（延30コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>②経営学検定講座</td> <td>全2回（延12コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>③ERE 経済学検定講座</td> <td>全1回（8コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>④MOS 講座</td> <td>全4回（延40コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>⑤英検2次受験対策講座</td> <td>全2回（延16コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>⑥公務員講座</td> <td>全1回（13コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>⑦福祉住環境コーディネーター試験受験対策講座</td> <td>全1回(15コマ)</td> <td>…受講者数延</td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>2. 検定試験の学内実施</p> <table border="0"> <tr> <td>①漢字能力検定</td> <td>全2回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延18人</td> </tr> <tr> <td>②ハングル能力検定</td> <td>全2回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延1人</td> </tr> <tr> <td>③中国語検定</td> <td>全3回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延7人</td> </tr> <tr> <td>④経営学検定</td> <td>全2回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延26人</td> </tr> <tr> <td>⑤ERE 経済学検定</td> <td>全2回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延4人</td> </tr> </table> <p>3. 資格等取得奨励奨学金の給付 7人に奨学金を給付した。給付を受けた学生の内訳は、「日商簿記検定」2級2人・3級1人、「宅地建物取引主任者資格」1人、「ビジネス法務実務検定」3級1人、「経営学検定」初級2人だった。</p>	①日商簿記検定3級講座	全3回（延30コマ）	…受講者数延	10人	②経営学検定講座	全2回（延12コマ）	…受講者数延	16人	③ERE 経済学検定講座	全1回（8コマ）	…受講者数延	1人	④MOS 講座	全4回（延40コマ）	…受講者数延	22人	⑤英検2次受験対策講座	全2回（延16コマ）	…受講者数延	4人	⑥公務員講座	全1回（13コマ）	…受講者数延	27人	⑦福祉住環境コーディネーター試験受験対策講座	全1回(15コマ)	…受講者数延	2人	①漢字能力検定	全2回実施	…受検者数	延18人	②ハングル能力検定	全2回実施	…受検者数	延1人	③中国語検定	全3回実施	…受検者数	延7人	④経営学検定	全2回実施	…受検者数	延26人	⑤ERE 経済学検定	全2回実施	…受検者数	延4人
①日商簿記検定3級講座	全3回（延30コマ）	…受講者数延	10人																																														
②経営学検定講座	全2回（延12コマ）	…受講者数延	16人																																														
③ERE 経済学検定講座	全1回（8コマ）	…受講者数延	1人																																														
④MOS 講座	全4回（延40コマ）	…受講者数延	22人																																														
⑤英検2次受験対策講座	全2回（延16コマ）	…受講者数延	4人																																														
⑥公務員講座	全1回（13コマ）	…受講者数延	27人																																														
⑦福祉住環境コーディネーター試験受験対策講座	全1回(15コマ)	…受講者数延	2人																																														
①漢字能力検定	全2回実施	…受検者数	延18人																																														
②ハングル能力検定	全2回実施	…受検者数	延1人																																														
③中国語検定	全3回実施	…受検者数	延7人																																														
④経営学検定	全2回実施	…受検者数	延26人																																														
⑤ERE 経済学検定	全2回実施	…受検者数	延4人																																														

<p>(2)経済的支援</p>	<p>①私費外国人留学生授業料減免を実施 留年者を除く私費外国人留学生で、経済的理由による減免申請の許可が認められた留学生の授業料を 40%減免した。</p> <p>②日本語能力試験合格者（N1・N2）の学費減免 N1、N2 に合格した外国人留学生の以後の学期の学費をそれぞれ減免した。</p> <p>③私費外国人留学生への学習支援金の給付 2、3 年生で、他の奨学金を受給していない留学生を対象とし、申請のあった留学生のうち成績優秀者（評価係数により審査）に対して、学習支援金を給付した。</p> <p>④新入学外国人留学生全員に住居費補助及び通学費等補助の給付 日本での学習及び生活を円滑に始められるようにするため、新留学生全員に住居費補助（月額 10,000 円、最大年間 120,000 円）、通学費等補助（年額 30,000 円）を給付した。</p> <p>⑤外国人留学生向け宿舎の情報提供 アパート物件情報の収集時に、留学生入居の可否を問い合わせ、83 室の入居可の物件情報を新入留学生に提供した。</p> <p>⑥資格外活動の法令順守指導およびアルバイト求人確保 資格外活動についての法令順守指導をガイダンスや掲示にて行うと同時に、年 2 回の「アルバイト届」提出時にも重ねて指導した。また、留学生の日本語能力に応じたアルバイト求人確保に努めた。</p>
-----------------	--

(3)各種交流支援

①日本人学生と留学生との交流行事

新入留学生歓迎会（観桜会）、送別会、忘年会、県内研修旅行（新潟市マンガ・アニメ情報館、イオン新潟南、弥彦神社ツアー、新潟県立歴史博物館）を実施し、日本人学生と留学生との交流の機会とした。

②地域社会及び地域の小中学校での国際交流

小・中学校における総合学習授業や文化活動団体の行事などに積極的に参加し、母国の文化紹介や相互交流を行った。

【地域における国際交流の実績】

日	派遣先	内容	参加留学生数
6月22日	高田コミセン	留学生との交流会	8人
6月23日	柏崎第一中学校3年生	留学生との交流会母国紹介、柏崎（日本）で感じたこと	4人
7月12、13日 7月19、20日	柏崎地域国際化協会	ホームステイ	8人
10月26日	高田コミセン	ほっとたかだコミセン祭り	5人
11月5日	鏡が沖中学校	国際交流インタビュー	2人
11月20日	刈羽小学校全学年	国際セミナー（児童との交流会）	5人
2月9日	北鯖石小学校	母国紹介（モンゴルの歌・楽器演奏）	3人
3月10日	刈羽小学校2年生	母国紹介（モンゴルの歌・楽器演奏）	3人

7. 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 26 年度実施内容
(1)募集広報の改善	<p>①オープンキャンパスの充実。</p> <p>ア. オープンキャンパス参加者数は、平成 25 年度に比し微増だった。</p> <p>イ. 参加者に対する入学試験受験料半額減免措置を、「一般入試」と「大学入試センター試験利用入試」（以下、「センター利用入試」という。）において実施した（平成 26 年度入試においては一般入試のみ減免実施。）。</p> <p>ウ. 在学生による大学及び学科概要説明を実施した。プレゼンテーションの資料作成にも在学生が関わり、高校生に内容が伝わり易くなった。また、事前に入念なりハーサルを行うことにより、在学生のプレゼンテーションの質を高め、本学の印象を向上させることができた。</p> <p>エ. 学園祭でミニオープンキャンパスを開催した。参加から入学につながった。</p> <p>オ. 参加者に学園祭模擬店利用チケットを配付した。</p> <p>②広告媒体の見直し、女子生徒や社会人向け広報の強化</p> <p>ア. 広報媒体を精査して参画した。資料請求者数は平成 25 年度比 153%と大幅な伸びとなった。</p> <p>イ. 女子生徒向けパンフレット 3、4 号を作成し、資料請求者への送付や高校の進路指導室への配布を行なった。結果、女子高校生の入学者数は平成 26 前年度比 31%増加した。</p> <p>ウ. 社会人については効果的な広報ができず、平成 26 年度秋学期入学が 3 人、平成 27 年度は 1 年次入学 1 人、編入学 1 人のみとなった。</p> <p>③教職員の高校訪問による広報の強化</p> <p>教職員ペアによる高校訪問や進学説明会参加を継続し、それぞれの観点から、本学の教育内容や学生支援策、入試制度等について説明した。</p> <p>④重点高校に対する入試広報</p> <p>募集重点高校からの志願者、入学者の成果を上げていくために、高校別に担当教員を決めて高校訪問を実施した。</p>
(2)入試制度の見直し	<p>①運動部の募集活動強化</p> <p>ア. 強化指定部の顧問が募集活動を精力的に行った。</p> <p>イ. スポーツ推薦の応募資格からレギュラーの制約を撤廃し、これまで以上に多くの運動部生徒が出願できるようにした。</p> <p>ウ. サッカー部監督が県内外で募集活動を行った。また、関東と関西にスカウトマン兼アドバイザーを委嘱し、学生募集活動と情報収集を行った。</p> <p>エ. 自己推薦入試をスポーツ文化活動特待制度の対象入試とし、スポーツ推薦入試を受験できなかった受験生に門戸を広げた。</p> <p>②資格特待制度の見直し</p> <p>日本漢字能力検定 1 級、準 1 級、2 級を追加した。</p> <p>③編入学試験の出願基準を緩和する。</p> <p>指定資格を持つ受験者の専門教科試験を免除するとともに、資格特待生として採用することとした。</p>

<p>(3)留学生募集の改善</p>	<p>①覚書締結校への募集活動強化 平成 25 年度中に新たに覚書を締結した高校や日本語学校への募集活動を強化した。韓国や台湾の日本語学校や高校に本学資料を送付し、情報収集を行った。更に、台湾には 3 月に本学教員が訪問し、協定校生徒に直接説明会を実施した。また、初めてモンゴル国において学生募集活動と入試を実施した。</p> <p>②新たな留学生受け入れ先を開拓する。 秋学期入学の海外入試及び 4 月入学の国内在留留学生入試において、ベトナム人留学生及びネパール人留学生が初めて入学した。</p>
--------------------	--

8. 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 26 年度実施内容					
(1)生涯学習事業	①聴講講座の実施 本学の正規授業を一般に開放する「聴講講座（有料）」を実施し、地域に学びの場を提供した。 春学期は 92 講座を開放して 25 講座に聴講があり、秋学期は 85 講座を開放し 29 講座に聴講があった。柏崎・刈羽以外の地域に対する聴講講座案内は、チラシ配布やダイレクトメール等により行い、併せて、「友の会」（本学生涯学習センター支援組織）への加入勧誘を図り、会員数は平成 27 年 3 月末時点で 38 人となった。また、平成 26 年 11 月 1 日の学園祭開催時に大学キャンパスにて毎年恒例の「友の会懇親会」を開催した。学長をはじめ、聴講講座担当教員も多数参加し交流した。					
	ア. 聴講講座（春） （※No.の○印は、平日夜間講座。）					
	No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
	①	ビジネス&生活英語 I	星野 三喜夫	8	4/10～7/17	15
	2	中国文化事情	詹 秀娟	4	4/11～7/18	15
	3	スポーツ産業論	小黒 裕二 広川 俊男	1	4/8～7/22	15
	4	基礎中国語 A	詹 秀娟	1	4/8～7/22	15
	5	基礎韓国語 A	金 光林	1	4/8～7/22	15
	6	中国語演習 I	詹 秀娟	3	4/10～7/17	15
	7	観光資源論	金 光林	1	4/10～7/17	15
8	政治学	判澤 純太	1	4/10～7/17	15	
⑨	韓国語入門 I	蓮池 薫	3	4/7～7/21	15	
10	文学	黒川 敬三	2	4/7～7/21	15	
11	韓国語会話 A	金 光林	2	4/9～7/16	15	
12	統計学Ⅱ	橋本 次郎	1	4/7～7/21	15	
13	日本史 I	小林 健彦	2	4/11～7/18	15	
14	西洋の芸術	梅比良 眞史	1	4/11～7/18	15	
⑮	モンゴルの歴史・文化・社会 I	ウジバヤル	3	4/8～7/22	15	
⑯	韓国語中級 I	金 光林	4	4/10～7/17	15	
17	奈良時代の美術 I	片岡 直樹	1	4/11～7/18	15	
18	日本の芸術	片岡 直樹	2	4/18～7/18	14	
19	英語講読 A（沼岡）	沼岡 努	2	4/9～7/16	15	
20	TOEIC 英語	沼岡 努	2	4/9～7/116	15	
21	哲学	渡辺 信也	2	4/7～7/21	15	
22	韓国語演習 I	蓮池 薫	5	4/10～7/17	15	
23	食文化論	梅比良 眞史	5	4/11～7/18	15	
24	英語演習 I	星野 三喜夫	1	4/10～7/17	15	
25	英会話 A	モルト ジェリアン	1	4/8～7/22	15	
		受講者計	59			
イ. 聴講講座（秋） （※No.の○印は、平日夜間講座。）						
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	
①	ビジネス&生活英語Ⅱ	星野 三喜夫	8	9/25～1/22	15	
②	モンゴルの歴史・社会・文化Ⅱ	ウジバヤル	3	9/25～1/22	15	
③	韓国語中級Ⅱ	金 光林	5	9/25～1/22	15	
4	基礎中国語 B	詹 秀娟	1	9/30～1/27	15	
5	中国語演習Ⅱ	詹 秀娟	3	9/24～1/21	15	

6	異文化コミュニケーション	蓮池 薫	1	9/22～1/26	15
7	心理学	岡田 奈緒子	6	9/25～1/22	15
8	基礎韓国語会話 B	蓮池 薫	2	9/24～1/21	15
⑨	韓国語入門Ⅱ	蓮池 薫	2	9/22～1/26	15
10	東アジア文化交流史	金光林/ウリジハヤル	1	9/22～1/26	15
11	韓国語会話 B	金 光林	2	9/24～1/21	15
12	西洋史	沼岡 努	2	9/22～1/26	15
13	満州国とモンゴル	ウリジハヤル	2	9/25～1/22	15
14	日本史Ⅱ	小林 健彦	3	9/19～1/23	15
15	東洋の芸術	片岡 直樹	1	9/26～1/23	14
16	統計学Ⅰ	橋本 次郎	1	9/22～1/26	15
17	TOEIC英語	沼岡 努	1	9/24～1/21	15
18	現代農業論	片桐 民生	2	9/30～1/27	15
19	英語講読B	沼岡 努	2	9/24～1/21	15
20	英語講読B	黒川 敬三	1	9/24～1/21	15
21	環境とエネルギー	アブドゲニ	1	9/22～1/26	15
22	日本の伝統芸能	三井田 忠明	1	9/19～1/23	15
23	英語演習Ⅱ	星野 三喜夫	1	9/25～1/22	15
24	英会話B	モルト	2	9/30～1/27	15
25	経済学から見た日本経済Ⅱ	江口 潜	1	9/24～1/22	15
26	アジアの観光資源	金 光林	1	9/30～1/27	15
27	日本語概論	梅比良 眞史	1	9/30～1/27	15
28	国際関係論	判澤 純太	1	9/25～1/22	15
29	日本文化論	小林 健彦	1	9/23～1/20	15
		受講者計	59		

ウ. 資格取得のための聴講講座

本学で行っている学生向けの各種資格取得支援講座を一般に公開（有料）した。「英検 2 級・準 2 級面接試験対策講座」を春に、「英検 2 級面接試験対策支援講座」を秋に行った。

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	英検 2 級・準 2 級面接試験対策聴講講座	星野 三喜夫	6	5/26～7/14	8
2	英検 2 級面接試験対策聴講講座	星野 三喜夫	3	9/29～12/8	8
		受講者計	9		

②連携講座の実施

行政や各機関との連携を図り、柏崎市主催の「かしわざき市民大学」や JCV(上越ケーブルビジョン)およびミルフォ(刈羽村ケーブルテレビ)主催のプログラムへ教員を派遣した。

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	日本美術史講座 (かしわざき市民大学)	片岡 直樹	61	7/3,10,17,31	4
2	キャラクタービジネスで地域 活性化ができる？ (かしわざき市民大学)	権田 恭子	12	6/6,20 7/4,18	4
		— 34 —	— 34 —	— 34 —	— 34 —
4	美しい日本語の表現 (かしわざき市民大学)	北原 保雄	40	10/10	1

5	はじめての仏像 (かしまぎき市民大学)	片岡 直樹	41	10/23,30 11/13,20	4
6	チームマネジメント 褒める指導/信じて待つ (上越ケーブルビジョン) 公開講座	小黒 裕二	17	7/1	2
7	チームマネジメント 目標を持つ/チームマネジメント (上越ケーブルビジョン) 公開講座	小黒 裕二	17	7/8	2
8	奈良美術の世界 2 奈良時代の仏像/奈良・平安時 代の仏像 (上越ケーブルビジョン) 公開講座	片岡 直樹	80	10/21	2
9	奈良美術の世界 2 鎌倉時代の仏像/興福寺の工芸 品 (上越ケーブルビジョン) 公開講座	片岡 直樹	80	10/28	2
10	オリジナルキャラクターづく りワークショップ (刈羽ケーブル TV4 回放送)	権田 恭子	—		4
		受講者計	361		

③内田エネルギー科学振興財団助成事業による講座開催

No.	講座名	講師名	期日	回数
1	光万華鏡の工作(柏崎親子ワン ダーランド実演実習出店)	アブドゲニィ アブドレ ヒミ/藤井信行	8/3	1
2	水のサイエンス(まなびすと in 柏崎)	アブドゲニィ アブドレ ヒミ/藤井信行	9/24	1
3	水と環境問題、光触媒による環 境浄化について(柏崎フォーラ ムワークショップ)	アブドゲニィ アブドレ ヒミ/藤井信行	10/19	1
4	高齢者のためのスマートフォ ン安心安全講習会	平野 実良	11/1,2 3/10,12	4
5	女子向けサッカースクール	本学サッカー部	12/20	1

(2) 青少年国際経済人育成事業
(新潟県ロータリークラブ寄付金原資)

- ①地元ラジオFMピッカラへの本学学生の出演
柏崎のコミュニティ・ラジオ「FMピッカラ」のラジオ番組「ホワイト・ボード」(月3回・金曜日 19:00~20:00)に本学学生が出演するとともに、企画製作にも関わり、情報伝達方法や広報活動等を学んだ。
- ②「地球くらぶ」(国際教養体験講座) イベントを実施
地元の児童クラブを訪問して東アジアの言語や文化を紹介するイベント「地球くらぶ」を2回開催した。イベントには主に本学留学生が参加し、スライド等を駆使して自国を紹介した。児童の国際感覚養成に資する活動となった。
- ア. 米山児童クラブ
日時:平成26年8月7日(木) 10:00~12:00
場所:鯖石児童クラブ 参加人数:8人(児童)
- イ. 西山児童クラブ
日時:平成26年8月7日(木) 13:00~15:00
場所:西山児童クラブ 参加人数:37人(児童)
- ③プレゼンテーション及び自己アピール能力育成事業 ※ () は参加人数。
デザインソフトを9ライセンス購入し、学生のプレゼン・自己アピール能力育成ツールとして活用した。
経済経営学科基礎ゼミⅢの6クラスでは(72人)、合計2時間分の指導を

	<p>行ったほか、権田講師の専門ゼミⅠ・Ⅱでは日常的に利用（14人）している。また、学園祭時の「PCイラスト体験コーナー」（20人）や、「大学は美味しい!! フェア」「十日町ビジネスコンテスト」等におけるパッケージデザイン、ポスターデザイン等、学生が活躍する機会にこのソフトを活用した。その他、2014年オープンキャンパス等での体験授業として、長岡西中学校（40人）、新潟産業大学附属高等学校（120人）、柏崎高等学校（20人）、新潟東高等学校（80人）とPCによるイラスト作成体験に活用した。学外においては、権田講師が、かしわざき市民大学、二田小学校の総合学習（「柿のゆるキャラづくりワークショップ」5人）、刈羽中学校オリジナルキャラクターづくりワークショップ指導（11人）など、ニーズのあるところに、要請にこたえる形で実施した。</p> <p>④地域通貨事業 地域通貨事業とは、地域通貨をとおして、学生が「生きた経済」と地域振興との関わりを学ぶとともに、積極的に地域のボランティア活動に参加する動機づけとして行うものである。実際に、大学近くの田んぼで米作りを体験し、米本位制地域通貨の原資作りの活動も行った。また、収穫した米を地元菓子メーカーとのコラボレーションで製品化も行い、「大学はおいしいフェア」東京にも参加した。</p> <p>⑤海外・国内研修 青少年に国際人としての資質を涵養し、コミュニケーション能力を育成する目的で、国際文化研修（英国）及び日本文化研修（京都）を実施し、引率教員の旅費交通費補助や、国際文化研修参加学生5人（各5,000円）への助成を行った。</p> <p>⑥特別企画発表会開催 本学の学園祭にあわせ「2014留学・海外体験発表会」を開催した。本学学生の留学体験発表の他、柏崎地域国際化協会ダイバーシティスタディツアー経験者・海外協力隊経験者及び海外留学・就労体験者が発表を行った。</p>
<p>(3)柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定に基づく取り組み</p>	<p>①平成26年度大学・地域連携推進業務委託 「かしわざき住みたい度調査」(江口准教授) 「空き店舗活用事業」(新潟産業大学・新潟工科大学共同受託) ・第4回最高プロジェクト、駄菓子屋、クリスマスイルミネーション、などを企画運営。</p> <p>②ぎおん柏崎まつり参加 7月25日、ぎおん柏崎まつり二日目の「樽仁和賀パレード」に、「新潟産業大学御輿」を出し、学生・教職員計50人が参加した。</p> <p>③柏崎市の各種委員会等への委員派遣 1) 柏崎市行政改革推進委員会委員（橋本次郎教授） 2) 柏崎市指定管理者選定委員会委員（高橋成夫教授） 3) 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員（星野三喜夫教授） 4) 柏崎市入札監視委員会委員（星野三喜夫教授） 5) 柏崎市職員倫理審査会委員（秋山正道教授） 6) 柏崎市第四次総合計画後期基本計画策定市民会議（豊かな心と生きる力）分科会委員（広川俊男教授） 7) 柏崎市特別職報酬等審議会委員（広川俊男教授） 8) 柏崎市公益通報等審査委員会委員（梅澤精教授） 9) 柏崎市情報公開・個人情報保護審査会委員（梅澤精教授）</p>

	<p>10) 柏崎市男女共同参画社会審議会委員 (梅比良眞史教授)</p> <p>11) 柏崎市中越沖地震復興祈念事業実行委員会委員 (詹秀娟教授)</p> <p>12) 「かしわざき市民大学」企画運営スタッフ (片岡直樹教授)</p> <p>13) 柏崎市 WEB ミュージアム利活用研究会構成委員 (片岡直樹教授)</p> <p>14) 柏崎市都市計画審議会委員 (金光林教授)</p> <p>15) 柏崎市廃棄物減量等推進審議会委員 (アハメドシャハリアル准教授)</p> <p>16) 柏崎市バイオマス利活用推進協議会委員 (アブドゲニニアブドレヒミ准教授)</p> <p>17) 柏崎市福祉有償運送運営協議会委員 (蓮池薫准教授)</p> <p>18) 柏崎市奨学金貸付選考委員会委員 (小林健彦准教授)</p> <p>19) 柏崎市文化財保護審議会委員 (小林健彦准教授)</p> <p>20) 柏崎市 WEB ミュージアム利活用研究会構成委員 (小林健彦准教授)</p> <p>21) 柏崎市健康づくり推進会議委員 (平野実良講師)</p> <p>22) 柏崎市介護保険運営協議会委員(柏崎市地域包括支援センター運営協議会委員兼務) (平野実良講師)</p> <p>23) 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員 (平野実良講師)</p> <p>24) 柏崎市地域医療連携会議委員 (平野実良講師)</p> <p>25) 柏崎市環境審議会委員 (川本真哉講師)</p> <p>26) 柏崎市元気なまちづくり事業補助金審査員 (宇都宮仁講師)</p> <p>27) 柏崎市都市スポーツ推進審議会委員 (青柳勸助手)</p> <p>28) 柏崎市シティセールス推進計画策定会議委員 (青柳勸助手)</p> <p>29) 柏崎リーダー塾運営協議会委員 (金子和裕事務局長)</p> <p>30) 「かしわざき市民大学」企画運営スタッフ (押見操子教務課係長)</p>												
(4)水球のまち柏崎への協力体制	<p>①ブルボンウォーターポロクラブ事務局への大学施設の賃貸。</p> <p>②青柳勸経済学部助手が同クラブの選手兼任監督。</p>												
(5) 普通地方公共団体への施設貸与	<p>平成 24 年 4 月 1 日、新潟県柏崎市との間において、建物賃貸借契約書を締結(契約期間は平成 34 年 3 月 31 日まで)した。B 号館校舎(鉄骨造陸屋根 2 階建:床面積 1,448.39 m²)は、柏崎市立教育センターの庁舎として使用し、柏崎市職員が執務を行っている。</p>												
(6)新潟県委託調査	<p>①「平成 26 年度県内就職につながる学びの場づくり支援モデル事業」の受託(新潟の産業・企業を知る講座「地域振興論」の実施。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の趣旨 県内就職の促進を図るため産業界と協働し、県内大学生1年生から3年生を対象に、本学授業科目の「地域振興論」を公開しすることで、新潟県の製造業、商業、観光業、農業など第一次産業、第二次産業、第三次産業について、早い段階から理解を深めていくことを趣旨とする。 ・事業概要 事業は、座学とフィールドワークで構成し、座学は中越地方を中心とした多様な地域産業界や企業、行政のエキスパートを講師として招聘し、事前学習として開講した。座学で得た基礎知識を基に、フィールドワークも実施し、産業の現場を体験し、意見交換等を行った。 <table border="1" data-bbox="443 1800 1433 2051"> <thead> <tr> <th>開講日</th> <th>内容/行先/担当者等</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9/25 (木)</td> <td>「地域振興論」の授業を始めるにあたって「授業の趣旨説明等」新潟産業大学経済学部教授梅比良眞史(講義担当)</td> <td>講義33人</td> </tr> <tr> <td>10/2 (木)</td> <td>「十日町流ライフスタイル～アートがつくりだす人としごと・大地で輝く移住女子～」十日町市役所産業観光部部長渡辺正範氏</td> <td>講義35人</td> </tr> <tr> <td>10/4 (土)</td> <td>十日町市①アートがつくりだす人としごと/NPO法人越後妻有里山協働機構事務局長関口正洋氏②地で輝く移住女</td> <td>フィールドワーク</td> </tr> </tbody> </table>	開講日	内容/行先/担当者等	参加者数	9/25 (木)	「地域振興論」の授業を始めるにあたって「授業の趣旨説明等」新潟産業大学経済学部教授梅比良眞史(講義担当)	講義33人	10/2 (木)	「十日町流ライフスタイル～アートがつくりだす人としごと・大地で輝く移住女子～」十日町市役所産業観光部部長渡辺正範氏	講義35人	10/4 (土)	十日町市①アートがつくりだす人としごと/NPO法人越後妻有里山協働機構事務局長関口正洋氏②地で輝く移住女	フィールドワーク
開講日	内容/行先/担当者等	参加者数											
9/25 (木)	「地域振興論」の授業を始めるにあたって「授業の趣旨説明等」新潟産業大学経済学部教授梅比良眞史(講義担当)	講義33人											
10/2 (木)	「十日町流ライフスタイル～アートがつくりだす人としごと・大地で輝く移住女子～」十日町市役所産業観光部部長渡辺正範氏	講義35人											
10/4 (土)	十日町市①アートがつくりだす人としごと/NPO法人越後妻有里山協働機構事務局長関口正洋氏②地で輝く移住女	フィールドワーク											

	子（新規就農への挑戦）坂下可奈子氏	27人
10/9（木）	柏崎の観光事業①柏崎市産業振興部観光交流課課長代理井比孝広氏②財団法人黒船館理事長直一郎氏	講義29人
10/11（土）	①柏崎コレクションビレッジ「黒船館」「痴娼の家」「藍民芸館」②株式会社ファームくじらなみ株式会社吉原工業	フィールドワーク 23人
10/16（木）	ものづくりの歴史と企業誘致柏崎市産業振興部工業振興立地課長ものづくり活性化センター所長長谷川正浩氏	講義137人
10/23（木）	富士ゼロックススマニューファクチュアリング株式会社 株式会社東芝柏崎工場	フィールドワーク 58人
10/30（木）	地域振興と金融柏崎信用金庫専務理事小出昭夫氏	講義30人
11/6（木）	農業・食品産業等①株式会社土佐工務店代表取締役土佐邦夫氏②ピーチビレッジ刈羽株式会社代表取締役社長入澤勇太氏	講義40人
11/8（土）	①日本海石地わさび園／株式会社土佐工務店②びあパークとうりんぼ（PVK）／ピーチビレッジ刈羽株式会社	フィールドワーク 41人
11/13（木）	食品産業について①株式会社ブルボン製造管理部次長高橋広栄氏②株式会社ブルボン人事企画部人事企画課係長田中良氏	講義40人
11/15（土）	ドナルド・キーン・センター柏崎公益財団法人ブルボン吉田記念財団、株式会社ブルボン	フィールドワーク 42人
11/20（木）	ワーク・ライフ・バランスについて 市民生活部人権啓発・男女共同参画室室長石黒啓子さん	講義25人
講義参加者数		延べ369人
フィールドワーク参加者数		延べ191人
参加者総合計		延べ560人
<p>②新潟県柏崎地域振興局からの調査委託</p> <p>平成26年度、本学は新潟県柏崎地域振興局から「元気な山里づくり推進モデル事業」に係る調査委託を受けた。調査内容は、柏崎中山間地域の活性に向け、地域の資源・特産品等を有効活用した新商品開発等を行い、この商品を通して消費地である“都市”との交流を促進し、地域活性に取り組むという試みに向けた調査である。</p> <p>本学ウリジバヤル助教とそのゼミ生がこれを受け、柏崎市高柳町を調査地域に定め、平成26年8月から同年12月の間に計10回、高柳町を訪問し地元の方々の多大な協力のもと、地域の歴史・自然・生活・文化・経済等を学び、調査を進めた。また、高柳地域の子供達との各種イベントにも参加し交流を深めた。ウリジバヤル助教のゼミ生は留学生が受講しており、外国人の目線から見た日本の中山間地域がどのようなであったかを知ることができた。</p> <p>平成26年度は、調査目的のすべてを完了することはできなかったが、参加した学生（延べ60名）にとってはアクティブラーニング実践の場となり、この活動を通して学生たちは多くのことを学んだ。</p>		
(7)地元ラジオ局への学長出演	柏崎コミュニティー放送 FMピッカラ 番組名「WIND AVENUE」 「北原保雄のよもやま話」放送回数22回	
(8)刈羽村との連携	平成27年3月25日 刈羽村・新潟産業大学・新潟工科大学の三者による「包括連携協定」を締結	
(9)その他	第6回「大学は美味しい!!」フェアに参加 東京(5月27日～6月2日)、長岡(10月11日～13日)で開催された「大学は美味しい!!」フェアに、阿部ゼミナール、梅澤ゼミナール、水球部などが参加した。本学の商品はつぎのとおり。 阿部ゼミナール：地域通貨事業で生産した米の一部を活用し、「菓子道楽新野	

	<p>屋」と商品開発した煎餅「たな米」を販売。</p> <p>梅澤ゼミナール：柏崎野菜「つららナス」を活用し、菓仙庵光月堂と商品開発した「つららナスのグラッセ」を販売。</p> <p>水球部：学生サークル「地域振興研究会」と原酒造が共同開発した生貯蔵酒「青涛」を販売。</p>
--	--

9. 国際交流

事業項目	平成 26 年度実施内容
(1)地域における国際交流	<p>①小中学校等への外国人留学生派遣事業 小中学校における総合学習や地域各種団体の行事などへ留学生を派遣し、母国文化紹介や相互交流を行った。</p> <p>②柏崎地域国際化協会関係事業 協会主催の「語学教室(講師)」などに留学生を派遣し柏崎市民との交流や柏崎市在住外国人へのサポート活動を行った。</p> <p>③学園祭で「私の主張 イン柏崎」を実施 留学生 8 人が柏崎市民に対し意見発表を行い、異文化理解への関心を高めた。</p>
(2)海外学術交流協定校との交流	<p>①短期留学生派遣 高麗大学（韓国）へ 1 人が 9 ヶ月間留学した。</p> <p>②短期留学生受入 黒龍江大学（中国）1 人、哈爾濱師範大学（中国）1 人、明道大学（台湾）3 人、計 5 人の交換留学生を受け入れた。</p> <p>③短期セミナー生受入れ 春学期に 2 人（中国 2）、秋学期に 5 人（中国 3・モンゴル 1、パキスタン 1）の短期セミナー生を受け入れた。</p>

10. 附属図書館

事業項目	平成 26 年度実施内容
(1)学習・教育・研究支援	<p>①利用満足度の向上 学生及び教職員の図書館利用の満足度向上のため、陳列・展示、レフェレンス（資料相談）、閲覧室の環境をより充実させた。</p> <p>②分飲スペースの設置 図書館内に、自動販売機を設置し、分飲スペースを設けた。区分けをしたことにより、図書館内のルールが明確化し、利用しやすくなった。</p> <p>③選書ツアーの実施 図書への興味や関心を高めることを目的に、学生による書店での選書ツアー（実地選書）を開催した。今年度は、新潟工科大学附属図書館との合同ツアーを実施し、交流を図ることが出来た。</p>

(2)資料の整理・整備・	<p>①配架図書の整理 昨年度同様、配架図書の新陳代謝を図る観点から、図書の整理を行った。教職教育や郷土資料、資格取得、就職活動など、目的別に利用者を誘導できるよう、各コーナーの特色をさらに高め、図書を充実させた。</p> <p>②図書の除籍 複数冊ある蔵書を中心に図書の除籍作業を行い、図書の整理、書棚のスペース確保・狭隘緩和を図った。</p>									
(3)資料の管理・保存	<p>①蔵書の確認・点検 返却遅延者管理の徹底と蔵書点検の実施で、所蔵の確認と不明本の抽出を行った。平成 26 年度末の不明本冊数は、31 冊となった。</p>									
(4)除却書籍の販売	<p>①古本市の実施 秋の学園祭に図書館として参加し、除籍・除却処分した図書や雑誌のリサイクル市を開いた。安価で専門書を提供する古本市は学生、教職員、一般来場者から好評を得た。</p>									
(5)開館サービス状況	<p>①開館時間：月～金 9:00～19:00 長期休業期間中 9:00～17:00</p> <p>②入館者延べ人数：20,080 人</p> <p>③資料提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出数：2,516 冊（前年度から 82 冊増） ・貸出延べ人数：1,086 人（うち、学生 613 人） ・他大学図書館との相互協力による資料依頼・資料提供件数 <table border="1" data-bbox="603 1043 1153 1155"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>27</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>27</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	27	66	受付	27	25
	文献複写	相互貸借								
依頼	27	66								
受付	27	25								

11. FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）

事業項目	平成 26 年度実施内容															
(1)FDの推進	<p>①授業改善アンケートの実施 春学期（H26.6.23～H26.6.27）と秋学期（H26.11.17～H26.11.21）の2回、授業アンケートを実施した。 アンケートの結果、高評価の授業については「受講生が選ぶベスト授業賞」として表彰（専任教員6科目、非常勤教員1科目）した。一方、評価の低い授業に対しては授業改善計画書の作成を義務付け、これを学内掲示した。 また、アンケート結果については、「科目別各回答率分布表」「全体結果グラフ」「クロス集計結果」を本学ホームページに掲載し一般に公開した。また、「授業改善計画書」「アンケート結果に対する教員から学生へのコメント」については学内公開した。「自由記述欄」については、各々担当教員に伝えた。</p> <p>②教員による相互授業見学（H26.10.13～H26.10.24） FD委員会が見学授業を指定し、全教員に指定授業の見学と見学後の「見学レポート」提出を義務付けた。 また、「見学レポート」を基に全教員による「授業見学意見交換会」（H26.11.5、16：45～18：25）を開催し、意見交換を行い個々の授業改善に繋げた。</p> <p>③FD講演会の開催 開催日：平成26年11月12日 17:10～ 講師：阿部雅明教授 テーマ：「FD学修会2014秋」への参加報告 参加数：22人（欠席4人）</p>															
(2)SDの推進	<p>「学校法人柏専学院教職員の研修に関する規程」に基づき、下表のとおり派遣研修を実施した。</p> <p><学外SD研修会></p> <table border="1" data-bbox="544 1469 1422 1906"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>時間</th> <th>研修テーマ等</th> <th>場所</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月18日(金) 8月21日(木) 9月19日(金) 10月15日(水) 11月21日(金)</td> <td></td> <td>ベティン・メソッドリーダーシップ研修 テーマ:「未来を創るリーダーシップ」</td> <td>長岡商工会議所</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>9月17日(水)</td> <td>9:30~17:30</td> <td>新潟大学スキルアップセミナー～ワークマネジメント研修～</td> <td>ときめいと</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	時間	研修テーマ等	場所	参加数	7月18日(金) 8月21日(木) 9月19日(金) 10月15日(水) 11月21日(金)		ベティン・メソッドリーダーシップ研修 テーマ:「未来を創るリーダーシップ」	長岡商工会議所	1人	9月17日(水)	9:30~17:30	新潟大学スキルアップセミナー～ワークマネジメント研修～	ときめいと	1人
実施日	時間	研修テーマ等	場所	参加数												
7月18日(金) 8月21日(木) 9月19日(金) 10月15日(水) 11月21日(金)		ベティン・メソッドリーダーシップ研修 テーマ:「未来を創るリーダーシップ」	長岡商工会議所	1人												
9月17日(水)	9:30~17:30	新潟大学スキルアップセミナー～ワークマネジメント研修～	ときめいと	1人												

12. 施設開放

事業項目	平成 26 年度実施内容
(1)大学施設開放	<p>地域に根ざす開かれた大学として、本学施設の利用について、広く地域に呼びかけているが、平成 26 年度は、約 6,700 人の学外者が本学の施設を利用した。以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p>【開放施設】</p> <ul style="list-style-type: none">①体育館 利用日数：延べ 97 日③テニスコート 利用日数：延べ 140 日④講堂 1 日⑤教室他 18 日⑥駐車場 3 日

Ⅱ. 新潟産業大学大学院経済学研究科

1. 教育の成果

事業区分・項目	平成 26 年度報告
(1)学位授与	経済学研究科経済分析・ビジネス専攻修士（経済学）課程を 10 名が修了した。

2. 教育及び研究指導の改善

事業区分・項目	平成 26 年度報告
(1)教育課程の整備	研究の高度化及び地域振興のための経済研究 大学院の教育目標にある地域社会の指導的産業人や自治体職員などの養成に向けた実践的科目として、アグリビジネスや商店街活性化に関する科目の調査検討を行った。
(2)ファカルティ・ディベロップメントの推進	①FD活動の一環としての研究報告会開催 1回の研究報告会を実施した。 ②大学院授業改善アンケートの実施 平成 25 年度に引き続き、授業に院生の意見をより反映させるようにするため実施した。
(3)大学院科目のナンバリングを設定	学問分野での科目がもつ難易度や位置付けをわかりやすくするために、大学院科目にナンバリングを設定した。
(4)シニア学生の学納金軽減規程を新設	多様な学生を受け入れやすくするため、シニア学生の学費軽減規程を新設した。
(5)大学院聴講生規程の新設	社会人が大学院に来やすくすることを目的とした大学院聴講生規程を新設した。

3. 学習・研究の支援

事業項目	平成 26 年度報告
(1)基礎学力養成支援	①院生の経済学・経営学検定試験受験のために、受験料の支援を行った。 ②院生の文献検索を助けるため、文献複写・相互貸借の費用の支援を行った。
(2)院生指導室の整備	院生の個別指導を充実させるために統計処理ソフト（Eviews8）を購入した。

4. 国際交流

事業項目	平成 26 年度報告
(1)国際交流の明確化	海外の大学との学術協定締結のための条件整備を行うとともに、引き続き学術情報の交換を内モンゴル農業大学に申し入れた。

Ⅲ. 新潟産業大学附属高等学校

1. 平成26年度の「教育等の事業」の概要

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ！進路で輝け！」をスローガンに掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指してきた。そこで、募集活動や広報活動では中学校訪問を数多くこなし、高校説明会の機会を増やすなど、当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう必至に努力してきた。

2. 平成26年度実績

(1) 部活動実績（国際大会・全国大会レベルに挑戦）

県高等学校総合体育大会に166名（昨年度147名）が出場し、北信越高等学校体育大会（ゴルフは関東大会）に66名（昨年度48名）が出場した。インターハイ等全国大会出場者数は延べ41名（昨年度28名）に達した。

①卓球部

- 県高等学校総合体育大会 学校対抗戦男女、シングルス男女、ダブルス男女で優勝を果たした。新潟県全種目2連覇の快挙を達成した。
- 北信越高等学校体育大会 学校対抗戦で男女3位、男女シングルスで3位、男子ダブルス3位と健闘した。
- 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）男女学校対抗戦、男女シングルス、男女ダブルスの全種目に出場した。
- 国民体育大会 卓球少年女子に2名出場した。
- 全日本卓球選手権大会 6名出場を果たした。
- 第42回北信越高等学校選抜卓球選手権大会 男子学校対抗第3位、女子学校対抗第5位の成績を収め、全日本高等学校選抜卓球大会に男女共学校対抗戦に出場した。

②陸上競技部

- 県高等学校総合体育大会 男子 棒高跳と男子 走幅跳で優勝した。学校対校 男子総合の部5位 男子フィールドの部1位 学校対校 女子総合の部8位の結果を出した。
- 北信越高等学校体育大会 男子棒高跳で2位、男子走高跳5位、男子走幅跳4位、女子走高跳4位でインターハイ出場権を獲得した。学校対校 男子フィールドの部4位の結果を出した。
- 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）男子棒高跳、男子走高跳、男子走幅跳、女子走高跳に出場し、男子走幅跳で決勝に進出した（11位）。
- 国民体育大会 男子棒高跳に1名出場した。

③ソフトテニス部

- 県高等学校総合体育大会 男子個人戦準優勝、団体戦3位と活躍した。
- 全日本選抜大会新潟県予選会 男子団体戦で優勝を果たした。
- 北信越高等学校体育大会 個人戦、団体戦とも出場した。
- 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）男子個人戦に出場した。

④ゴルフ部

- 第16回新潟県ジュニア選抜競技会 優勝、第17回新潟県ジュニアゴルフ競技会 高校男子の部 優勝を果たした。

- 関信越高等学校ゴルフ選手権大会 男子個人の部 第3位 男子団体の部 第3位
(関東決勝大会出場)、関信越高等学校ゴルフ選手権秋季大会 優勝を果たした。
- 全国高等学校ゴルフ選手権大会 男子個人の部・団体の部に出場した。
- 国民体育大会 1名出場した。

④水泳部

- 北信越高等学校体育大会 2種目に出場した。
- 全日本ユースライフセービング選手権大会 ボードレスキュー1位(柏崎工業の生徒とペア)、ボードレース2位、サーフレース2位に入賞した。
- ライフセービング世界大会 RESCUE 2014 ボードレース 11位、ラインスロー5位、4×25mマネキンキャリアリレー6位、4×50m障害物リレー9位、4×50mメドレーリレーでは11位入賞した。
- 全日本ジュニア/ユースライフセービング・プール競技会 ラインスロー1位、男子100mマネキントゥ・ウィズフィン1位、男子50mマネキンキャリア2位入賞を果たした。

⑤男子バスケットボール部

- 第43回BSN杯高等学校バスケットボール大会 第3位の成績を収め、北信越大会に出場を果たした。

⑥野球部

- 第130回北信越地区高校野球新潟県大会(春季大会)第3位。

(2) 進学実績(大学・短期大学進学率 53.8%、専修学校 26.9%)

※昨年度大学・短期大学進学率 53.4%、専修学校 28.8%

- ①4年制大学進学率は50.0%であった。
- ②4年連続で国公立大学合格者を輩出した。
- ③難関私立大学(明治大)の合格者を輩出した。

取り組み

- ①夏期特進講座(5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間)・冬期特進講座(5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間)・サマーゼミ(2泊3日の学習合宿、国語5時間、数学5時間、英語5時間、個別指導等6時間)・春期特進講座(5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間)は前年度と同様に計画・実施した。
サマーゼミ(2泊3日の学習合宿)は、昨年同様1、2年生を対象に妙高高原にて実施した。
- ②大学進学プログラム
月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の8限及び水曜日の7、8限と土曜日の1、2、3限を利用し、大学進学に向けた学力向上を図った。
- ③高大連携教育(ブリッジプログラム)の実施
1年生のフレッシュャーズセミナー等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施できた。

3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

(1) 教育目標と教育方針

【教育目標】

上品で逞しい生徒の育成

1. 人生観の指導と自信のある生活態度の育成
2. 学習意欲と能力の向上
3. 自律自治と社会連帯の精神涵養

【教育方針】

生徒一人ひとりを大切にすることを基本に据え、部活で燃えろ！進路で輝け！を合言葉に、全国に名高い部活動・進学校を目指す。

(2) 生徒への支援

【教務部】

《今年度の重点事項》

- ①平成26年度教育課程の実施・検証
- ②規律ある授業態度と達成感のある学習活動
- ③進路指導部との連携にした効果的な学習指導
- ④授業時数の確保

《具体的な取り組み》

- ①3年生が数学・理科のみ先行実施の旧教育課程、1・2年生が新教育課程となる。新教育課程が2年目となり、問題点等の有無を確認しながら実施した。
- ②期限付きの取り組み（出席率調査、ベル着席率調査、学習活動完了率調査）を7～9日間で実施した。
- ③各定期考査前に考査週間を設定し、考査準備を徹底させる。夏季休業、冬季休業に補習授業を行い、赤点の学期毎の解消を徹底した。
- ④コース毎に授業時数を集計し、定期的に点検し、当初の計画通りの授業時数を確保した。長期休業毎に「特進講座」を1週間実施し、進学希望者の学力増進を図った。
- ⑤大学進学プログラムや放課後の自主学習を進路指導部と連携し、学習状況の点検や適切な助言をしながら、希望進路の達成を支援した。

《結果》

- ①特に問題点もなく教育課程を実践できた。各教科・科目の単位数の過不足を改善してほしいとの要望があった。
- ②「授業業規律向上の取り組み」や「期限付きの取り組み」が、クラスや学年による独自の取り組みと相まり、授業規律は向上した。
- ③自作教材や視聴覚教材の活用や演習量の増加により、達成感のある学習が実践できた。
- ④教科・科目ごとの時数に差異が見られたが、総授業時数は確保できた。

【生徒指導部】

《今年度の重点事項》

- ①規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ②生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助

③制服の正しい着用

《具体的な取り組み》

- ①基本的な生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と中途退学者の防止
保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧に指導し、中途退学者を減らす努力をした。
- ②校内規律の確立（制服・頭髪・化粧・言葉遣い）と社会のルールへの遵守
制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し、改善させた。化粧については、直ちに改善させた。
- ③学業に不必要な物品等を持ち込まない指導
ゲーム機、音楽プレイヤー、カード類、雑誌類、化粧品、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。
- ④立哨指導、巡視指導
生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指導並びに教師による当番制での安田駅での乗降車、マナー指導を実施した。
- ⑤長期休業の事前指導
夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前指導を実施した。また、保護者にも文書を配布し、期末PTA等で協力をお願いした。
- ⑥生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施
- ⑦腰パン禁止、シャツ出し禁止、スカートの正しい着用、ネクタイの正しい着用等の身だしなみの取り組みを年間通して指導をした。

《結果》

- ①無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問で状況把握ができた。
- ②頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。
- ③授業姿勢、雰囲気向上し生徒、教師共に相乗効果があった。
- ④挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守に効果があった。
- ⑤長期休業中は事故・事件はなかった。
- ⑥北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場し、入賞を果たした。
- ⑦正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はルール遵守の重要性が理解できた。

【進路指導部】

《今年度の重点事項》

- ・教科、学年と連携しながら組織的に特別進学指導を実施し、確かな受験学力をつける。
 - ・大学進学率、センター試験受験者数を高め、国公立大と難関私立大の合格者を増やす。
 - ・進路指導が段階的、系統的に行われるように次の年次指導目標を置く。
- 1年 安定した高校生活を過ごし、その中で理想とする生き方や将来の方向、職業を考える。
学習習慣を確立し、国語・数学・英語の学力充実と得意科目の発展的学習を進める。
- 2年 高校生活の一層の充実を図りながら、自分の関心・適性・能力を客観的に把握する。

社会的自己実現の為の進路目標を定め、国・数・英・受験科目の学力向上に努力する。
3年 希望する進路の目標を絞り、必要な情報を整理し、全力で受験準備に邁進する。
目標、情報、準備状況を総合的に判断し、果敢に受験しながら着実に進路を決定する。

《具体的な取り組み》

- ①進路の手引きの作成や、進路希望調査を実施した。
- ②進路指導室については、生徒が利用しやすいスペース作りや資料の蓄積と整理をした。
また、センター試験、就職試験への激励会を実施した。
- ③就職希望者の全員内定を目指し、「就職試験対策ゼミ」「ハローワーク相談室」「就職ガイダンスⅠ」「就職ガイダンスⅡ」「4者面談（保護者、生徒、担任、進路指導部）」等を実施した。
- ④カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を学期毎に実施した。
- ⑤大学進学者の増加策として、学年毎の進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試の指導やラーナーズクラブ（勉強部）を指導して大学進学者数の底上げを図った。
- ⑥教務部とタイアップして、大学進学プログラム・サマーゼミ等を充実させた。
- ⑦履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励した。
- ⑧新たな求人先の開拓を目指し、積極的に企業訪問を行った。
- ⑨社会人としての心得についての指導を目的に、社会人準備セミナーを実施した。
- ⑩広報とリンクし、「部活で燃えろ進路で輝け」及び「部活で燃えろ進路で輝け地域版」を地域（上越、長岡を含む）に配布した。
- ⑪新たな大学の指定校枠の開拓をした。

《結果》

- ①進路の手引きを作成し、全校生徒・保護者に配布した。進路意識調査は学期毎に実施したが、全体的には教師側の指導もあり、進学志向が高まってきている。
- ②進路指導室については、進学や就職の情報収集・面接練習或いはセンター試験受験の勉強スペースとして利用する生徒が多かった。
- ③2、3年生カレッジコースを対象としてセンター試験説明会を実施した。内容としては「センター試験受験の意義」や「出願書類の書き方」等を指導した。
- ④センター試験激励会については、試験前日は校内で、試験当日は会場にて、校長をはじめ保護者も参加して、他校よりも盛大に受験生の激励を行うことができた。就職試験激励会についても、校長の激励と就職内定祈願を受け、試験本番に臨むことができた。
- ⑤就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験に向けた指導を行い、事前学習・事前準備を促すことができた。ハローワーク相談室では、校内で職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、就職ガイダンスⅠにおいては、就職試験までの流れや就職試験の厳しさ、或いは進学への方向転換等を含めて説明をし、気を引き締めることができた。更に厚生労働省主催による就職ガイダンスⅡでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身につけることができた。未内定者については、保護者、生徒、担任、進路指導部の4者で将来についての方向を探りながら、面談等の指導を重ね希望者全員が内定することができた。
- ⑥進学意識を高める為と「高・大連携教育」の実践的な取り組みの一環として、1年生を対象として「フレッシュマンセミナー」や「産大・工科大見学会」を実施した。2年生では「大学見学会」や「進路ガイダンス」3年生では「進学説明会」等を実施した。ま

た、産業大学の教室を借用して、センター試験対策ゼミを実施した。3年生23名が参加し、自学自習の習慣づけと学力向上に努めることができた。国公立大学の推薦選抜入試にも複数の生徒をチャレンジさせた。更にラーナーズクラブ（勉強部）の活動を定着させ将来的な大学進学者数の底上げを図っている。

- ⑦サマーゼミ（学習合宿）を妙高高原で実施した。カレッジコース1年29名、2年19名が参加し、学習習慣と効率的な学習法を身に付けることができた。
- ⑧就職希望者を対象として手話講座を開催し、柏崎市職員の方から指導を受けた。基本的な部分ではあるが、受講者には特技の1つとして体得させることができた。また、資格取得を奨励・指導した。柏崎労働基準協会によるアーク溶接講習、クレーン講習で6名が資格を取得できた。
- ⑨企業訪問を実施した。職場への定着指導や今後の求人開拓に結び付く感触も得ることができた。
- ⑩就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施した。「社会でのマナー」について、にいがたキャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感をもたせることができた。
- ⑪進路指導ニュース「部活で燃える進路で輝け」の発行により、生徒に対しては進路に対する意識付けと自信を持たせ、地域に対しては本校をPRする活動の一助にもなり「生徒募集」に役立てることができた。

4. 生徒募集

(1) 中学校訪問の強化（長岡・上越地域の生徒の増加のために）

第1回から3回までの中学校訪問は、午後から授業のない考査期間中に実施した。第4回は二次入試の出願日程に合わせてるとともに、訪問者の授業時間割を考慮し、訪問日を分散させた。

第1回中学校訪問（広報活動、情報収集）

7月4日（金）、7日（月） 77校（昨年度77校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、十日町、上越、三条

第2回中学校訪問（生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内）

10月15日（水）、16日（木） 77校（昨年度77校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川

第3回中学校訪問（推薦・第一次・部活動専願入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動）

11月28日（金）、12月1日（月） 77校（昨年度77校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、三条、燕、出雲崎、魚沼、南魚沼、十日町、小千谷、上越、糸魚川

第4回中学校訪問（第二次入試に向けて、情報収集及び募集活動、推薦・第1次・部活動専願入試の報告）

2月20日（金）、23日（月）、24日（火）、26日（木）、27日（金）

57校（昨年度57校）

柏崎、刈羽、出雲崎、長岡、見附、小千谷、上越

(2) 高校説明会（中学校からの依頼参加）

< 柏崎・刈羽地区 (13校) 14回 >

- ①6月16日(月) 出雲崎町立出雲崎中学校 ⑨ 6月24日(火) 柏崎市立西山中学校
②6月17日(火) 柏崎市立第二中学校 ⑩ 6月26日(木) 柏崎市立北条中学校
③6月17日(火) 柏崎市立瑞穂中学校 ⑪ 7月7日(月) 柏崎市立東中学校
④6月18日(水) 柏崎市立第三中学校 ⑫ 7月9日(水) 柏崎市立南中学校
⑤6月19日(木) 柏崎市立第五中学校 ⑬ 7月11日(金) 柏崎市立松浜中学校
⑥6月20日(金) 柏崎市立第一中学校 ⑭ 7月15日(火) 柏崎市立高柳中学校
⑦6月20日(金) 刈羽村立刈羽中学校 ⑮ 11月12日(水) 柏崎市立第五中学校
⑧6月23日(月) 柏崎市立鏡が沖中学校

< 長岡地区 (4校) 4回 >

- ①6月13日(金) 長岡市立越路中学校 ③ 7月16日(水) 長岡市立大島中学校
②6月20日(金) 長岡市立東北中学校 ④ 10月30日(木) 長岡市立小国中学校

< 十日町地区 (1校) 1回 >

- ①7月8日(火) 十日町市立十日町南中学校

< 上越地区 (5校) 5回 >

- ① 6月17日(火) 上越市立大潟町中学校 ④10月2日(木) 上越市立柿崎中学校
② 6月19日(木) 上越市立直江津中学校 ⑤ 9月18日(水) 上越市立八千浦中学校
③ 7月7日(金) 妙高市立新井中学校

< 糸魚川地区 (2校) 3回 >

- ①7月4日(金) 糸魚川市立糸魚川東中学校
②7月10日(木) 糸魚川市立糸魚川中学校
③7月11日(金) 糸魚川市立糸魚川東中学校

(3) 中学校教師対象入試説明会

9月19日(金) 23校 23名 (平成25年度20校 20名参加)

柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、南中学校、東中学校、第五中学校、北条中学校、高柳中学校、西山中学校、刈羽村立刈羽中学校、長岡市立南中学校、長岡市立宮内中学校、青葉台中学校、関原中学校、堤岡中学校、小国中学校、上越市立直江津中学校、大潟町中学校、見附市立見附中学校、南魚沼市立城内中学校

(4) 学校見学会 (オープンスクール)

第1回学校見学会 7月6日(土) (部活動体験、産附弁当配付)

69名 (昨年度60名)

第2回学校見学会 10月18日(金) (授業・部活動体験、産附弁当配付)

165名 (昨年度173名)

個別見学会 随時 (授業・部活動体験)

3名 (昨年度4名)

(参考) 平成15年度 50名、平成16年度 86名、平成17年度 56名、平成18年度 76名、平成19年度 90名、平成20年度 168名、平成21年度 170名、平成22年度 145名、平成23年度 242名、平成24年度 269名、平成25年度 280名、平成26年度 237名

※学校見学会には、多くの中学生の参加があり、授業や部活動の見学・体験から、本校についての理解を深めてもらった。

(5) 募集結果 (平成27年度)

学科	募集 学級	募集 定員	区 分	志 願	受 験	合 格	入 学 手 続	入 学 許 可
普通	4	160	学業特別推薦	34	34	34	1	1
			スポーツ特別推薦	49	49	49	49	49
			一次(専願)	47	47	44	44	44
			部活動専願	25	24	21	21	21
			併願推薦	233	233	233	1	1
			一般併願	128	127	109	3	3
			計	516	514	490	119	119

5. 新規取組事項

- (1) 卓球部、陸上競技部、ゴルフ部が県の事業である「魅力ある私立高校づくり支援事業」の指定を受け、3年間の一区切りが付き、新しく1年目として事業に取り組んだ。26年度は、卓球部は県外遠征、陸上競技部は地域の治療院の協力を得て、選手のコンディショニングに努めるとともに、合宿の充実も計った。ゴルフ部はプロによるレッスン等の取組みをし、各部活とも結果を出した。
- (2) 特別教室棟と講堂棟の耐震工事を行った。
- (3) 平成26年度卒業記念事業として、大型製氷機を設置した。
- (4) 修学旅行先においては、異文化に触れることを目的としてベトナムに渡航した。
- (5) 当校の教育活動内容を広く浸透させるために広告等掲載を強化し、柏崎地区は「柏崎情報パーク」、上中越地区は「新潟日報上中越版等」、さらには「JR列車の時刻表」に本校広告を掲載した。さらに、高速バス内のアナウンスの中に本校の宣伝も流した。
- (6) 卒業式において、国歌斉唱、学園歌斉唱をブラスバンド部の生演奏で伴奏した。
- (7) 生徒の下校放送を取り入れた。
- (8) 部活動専願入試等を取り入れるなど、入試区分を改訂した。
- (9) 寮の跡地を多目的練習場として、解放した。
- (10) 柏崎エネルギーホールにて、教育フォーラムを開催し、中学校の生徒、保護者に当校の魅力を啓蒙した。
- (11) 特別教室棟にエアコンを設置した。
- (12) コンピュータ実習室のプロジェクターの入れ替えを行った。

第3部 財務の概要

平成26年度決算の概要について

新潟産業大学並びに新潟産業大学附属高等学校を経営しております学校法人柏専学院の平成26年度決算は、下記のとおりとなりました。

なお、本法人は、学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準拠した適正な会計処理を行っております。

資金収支計算書

平成26年4月 1日から
平成27年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

収入の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	入学金、授業料等の納付金	491,596,000	491,482,954	113,046
手数料収入	入学検定料、証明手数料など	11,782,000	12,097,368	△ 315,368
寄付金収入	本法人に対する寄付金、 但し現物寄付は除く	1,066,000	1,889,670	△ 823,670
補助金収入	国、地方公共団体などから 交付される補助金	340,198,000	341,285,725	△ 1,087,725
国庫補助金収入	国などからの補助金	(117,433,000)	(117,381,824)	(51,176)
地方公共団体補助金収入	県などからの補助金	(222,765,000)	(223,903,901)	(△ 1,138,901)
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	14,477,000	14,894,821	△ 417,821
資産売却収入	有価証券等の売却	166,093,000	166,093,460	△ 460
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 委託事業収入等	29,276,000	29,343,337	△ 67,337
雑収入	上記以外の収入	105,534,000	108,747,878	△ 3,213,878
借入金等収入	金融機関からの借入れ	11,761,000	11,761,000	0
前受金収入	平成27年度入学生にかかる 納付金など	55,068,000	79,391,918	△ 24,323,918
その他の収入	本法人に帰属しない収入	140,054,904	78,555,860	61,499,044
資金収入調整勘定	当年度の収入と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 133,848,668	△ 161,612,976	27,764,308
前年度繰越支払資金	平成25年度から繰り越された 現預金	603,399,801	603,399,801	
収入の部合計		1,836,457,037	1,777,330,816	59,126,221
支出の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
人件費支出	教職員、役員等の給与・手当	802,819,000	800,924,880	1,894,120
教育研究経費支出	教育研究のために要した経費	316,441,000	312,452,573	3,988,427
管理経費支出	教育研究経費以外の経費	103,267,000	95,585,252	7,681,748
借入金等利息支出	借入金の返済利息	4,000	3,222	778
借入金等返済支出	借入金の返済金	2,353,000	2,352,200	800
施設関係支出	建物、構築物	36,866,000	31,795,885	5,070,115
設備関係支出	備品、図書	9,649,000	6,104,607	3,544,393
資産運用支出	有価証券等の購入 特定預金への支出	81,357,000	80,203,933	1,153,067
その他の支出	上記以外の支出	87,341,336	21,071,633	66,269,703
[予備費]	当年度の予備費使用額 当年度の予備費の未使用額	(0) 19,200,000		19,200,000
資金支出調整勘定	当年度の支出と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 59,967,010	△ 60,049,948	82,938
次年度繰越支払資金	平成27年度へ繰り越す現預金	437,126,711	486,886,579	△ 49,759,868
支出の部合計		1,836,457,037	1,777,330,816	59,126,221

【資金収支計算書とは】

①当該年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにする。

②当該会計年度の支払資金(現金及びいつでも引出すことができる預貯金)の収入及び支出のてん末を明らかにする。

消費収支計算書

平成26年4月 1日から
平成27年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

消費収入の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	入学金、授業料等の納付金	491,596,000	491,482,954	113,046
手 数 料	入学検定料、証明手数料など	11,782,000	12,097,368	△ 315,368
寄 付 金	本法人に対する寄付金、 現物寄付を含む	2,482,000	3,478,998	△ 996,998
補 助 金	国、地方公共団体などから 交付される補助金	340,198,000	341,285,725	△ 1,087,725
国庫補助金	国などからの補助金	(117,433,000)	(117,381,824)	(51,176)
地方公共団体補助金	県などからの補助金	(222,765,000)	(223,903,901)	(△ 1,138,901)
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	14,477,000	14,894,821	△ 417,821
資産売却差額	資金収支の資産売却収入から 売却資産の簿価を引いた差額	0	0	0
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	29,276,000	29,343,337	△ 67,337
雑 収 入	上記以外の本法人への消費収 入	105,654,000	108,867,878	△ 3,213,878
帰 属 収 入 合 計	本法人の純財産を増加させる 収入の合計	995,465,000	1,001,451,081	△ 5,986,081
基本金組入額合計	教育に欠かさない資産を取得 した場合に組み入れする額	△ 22,931,000	0	△ 22,931,000
消費収入の部合計		972,534,000	1,001,451,081	△ 28,917,081
消費支出の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
人 件 費	教職員、役員等の給与・手当と 退職給与引当金の組入額	826,377,042	802,266,627	24,110,415
教育研究経費	教育研究のために要した経費 (減価償却額を含む)	398,441,000	396,561,442	1,879,558
管理経費	教育研究経費以外の経費 (減価償却額を含む)	123,967,000	115,959,045	8,007,955
借入金等利息	借入金の支払利息	4,000	3,222	778
資産処分差額	備品、図書を処分にかかる帳簿 価額との差額	1,000,000	1,129,245	△ 129,245
徴収不能額	未収入金等で当期において回収 不能と判断した額	0	1,897,750	△ 1,897,750
[予 備 費]	当年度の予備費使用額 (消費収支上の予備費) 当年度の予備費の未使用額 (消費収支上の予備費)	(0) 18,200,000	/	 18,200,000
消費支出の部合計		1,367,989,042	1,317,817,331	50,171,711
当年度消費収支差額	当年度の収支差額 [消費収入の部]-[消費支出の部]	△ 395,455,042	△ 316,366,250	/
前年度繰越消費収支差額	平成25年度からの繰り越された 消費収支差額	△ 2,339,118,728	△ 2,339,118,728	/
基本金取崩額	基本金の取り崩し額	0	361,891	/
翌年度繰越消費収支差額	平成27年度へ繰り越される 消費収支差額	△ 2,734,573,770	△ 2,655,123,087	/

【消費収支計算書とは】

当該年度の消費収入と消費支出を対照して収支及び資産の均衡の状態を表す。

【基本金とは】

学校法人の継続的な運営のために維持しなければならない基準金額の事。

【基本金組入額とは】

学校法人が最低限保有しなければならない財産の額を帰属収入より差引く事。

貸借対照表

平成27年3月31日

学校法人 柏専学院

(単位 円)

資産の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
固定資産		(3,904,774,970)	(4,104,682,405)	(△ 199,907,435)
有形固定資産		(3,177,831,340)	(3,243,884,327)	(△ 66,052,987)
土 地		865,304,747	865,304,747	0
建 物		1,625,217,502	1,673,646,833	△ 48,429,331
構 築 物		78,926,306	89,843,746	△ 10,917,440
教育研究用機器備品		25,447,824	27,671,265	△ 2,223,441
その他の機器備品		3,184,032	4,212,970	△ 1,028,938
図 書		578,149,206	577,800,861	348,345
車 輦		1,601,723	1,462,205	139,518
建設仮勘定	建物等が完成するまでの支出	0	3,941,700	△ 3,941,700
その他の固定資産		(726,943,630)	(860,798,078)	(△ 133,854,448)
電 話 加 入 権		1,685,993	1,685,993	0
敷 金		1,596,000	1,686,000	△ 90,000
有 価 証 券		300,238,278	446,102,224	△ 145,863,946
出 資 金		3,023,000	3,122,500	△ 99,500
退職給与引当特定資産	使途を定めた預貯金資産	291,489,174	258,547,740	32,941,434
施設設備引当特定資産	使途を定めた預貯金資産	120,275,195	139,554,601	△ 19,279,406
国際経済人育成特定資産	使途を定めた預貯金資産	4,500,000	6,000,000	△ 1,500,000
第3号基本金引当資産	奨学基金	4,000,000	4,000,000	0
預 託 金	車両リサイクル料	135,990	99,020	36,970
流動資産		(594,986,410)	(633,376,080)	(△ 38,389,670)
現 金 預 金		486,886,579	603,399,801	△ 116,513,222
未 収 入 金	年度末に未収となっている収入	104,964,648	25,267,111	79,697,537
短 期 貸 付 金	1年以内に回収の見込まれる貸付	0	0	0
前 払 金	翌年以降の諸活動にかかる支払額	3,085,183	4,309,279	△ 1,224,096
立 替 金	個人負担となるものを立替払した額	0	0	0
仮 払 金	概算払いの額	50,000	360,564	△ 310,564
預 り 預 金		0	39,325	△ 39,325
資産の部合計		(4,499,761,380)	(4,738,058,485)	(△ 238,297,105)
負債の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
固定負債		(396,453,122)	(388,054,775)	(8,398,347)
長 期 借 入 金	1年を超える借入金	7,056,600	0	7,056,600
退 職 給 与 引 当 金	将来の退職金の負担額の累計	389,396,522	388,054,775	1,341,747
流動負債		(158,840,834)	(89,170,036)	(69,670,798)
短 期 借 入 金	1年以内の借入金	2,352,200	0	2,352,200
未 払 金	支出代金等の未払の額	56,880,899	15,624,336	41,256,563
前 受 金	翌年度以降の納付金等	79,391,918	58,456,668	20,935,250
預 り 金	一時的に受入している額	20,215,817	15,089,032	5,126,785
負債の部合計		(555,293,956)	(477,224,811)	(78,069,145)
基本金の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	教育目的の固定資産取得額	6,435,590,511	6,435,952,402	△ 361,891
第 3 号 基 本 金	基金として保持する資産の額	4,000,000	4,000,000	0
第 4 号 基 本 金	恒常的に保持すべき資産の額	160,000,000	160,000,000	0
基本金の部合計		(6,599,590,511)	(6,599,952,402)	(△ 361,891)
消費収支差額の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額		△ 2,655,123,087	△ 2,339,118,728	△ 316,004,359
消費収支差額の部合計		(△ 2,655,123,087)	(△ 2,339,118,728)	(△ 316,004,359)
負債の部、基本金の部、 及び消費収支差額		(4,499,761,380)	(4,738,058,485)	(△ 238,297,105)